



NEWS LETTER かながわ

2021年度第2号(通巻第30号)

2022年4月 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail:jacdpanagawa@gmail.com

今年度の神奈川支部の活動は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、支部総会、第1・2回資格更新研修会の全てをWeb開催といたしました。皆さまのような感想をお持ちでしょうか。今回のニューズレターは、第2回資格更新研修会の報告を中心にお届けいたします。支部の活動にご意見ご感想等ありましたら、是非上記連絡先までお願いします。

巻頭言

神奈川支部事務局長 武部正明

「発達臨床とコミュニティ支援」

私たち臨床発達心理士は、子どもから大人まで生涯にわたり支援すること、人の発達・成長・加齢に寄り添い、必要とされる援助を提供することに専門性があるとされています（一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構ホームページより）。当支部において職域調査を実施したことはありませんが、これまでの研修会の参加状況等からしますと、幼児期から学齢期・青年期への支援者・教育者が一定の割合を占めると想定されます。そこで、今回は介護保険制度を中心として設計された地域包括ケアシステム及び子ども・若者や障害者等を包括した支援体制の構築に向けた国の施策について取り上げてみます。

国は早くから老人福祉法、老人保健法の制度化、1990年代のゴールドプランの策定、2000年の介護保険制度の発足というように高齢社会に向けた対策を立ててきました。そして厚生労働省は、医療・看護・介護だけでなく、家族や地域・行政等を巻き込み、住み慣れた地域で、家族や地域の方々のできる限り自分らしい生活を継続できる支援体制づくりを目指すとした「地域包括ケアシステム」を提唱しています。このシステムの構築は当然ながら財政的な課題ともリンクするものでありますが、臨床的には、共生社会の実現という理念と通ずるものと考えられます。

一方、近年、いわゆる「8050問題」、「孤独死」、「社会的なひきこもり」、「児童虐待及び高齢者虐待等」などに係る複合的な課題を抱え、支援を要する事例が多く、単一の支援機関では十分に支援し切れないことのほうが一般的といえるのかもしれませんが。そこで、国は地域包括ケアシステムの推進に加え、その強化策として「重層的支援体制整備事業」を設けています。高齢者支援と障害者支援、子育て支援と高齢者の介護予防等のように地域の取組みを包括的な支援システムとして一体的に支援する仕組みづくりを促進することが目的とされています。私たち臨床発達心理士による「各地域での各領域での支援・実践」がシステムティックに協働することで、対象者のみならずコミュニティを支援することにもつながる可能性があること、神奈川らしい支援体制の構築に臨床発達心理士が関与でき得るということをやぜひ支部会員の皆様にはあらためて認識していただき、どうしたら協働できるのかといった点について議論を重ねたいと思う今日この頃です。引き続き支部活動へのご協力、よろしく願いいたします。



神奈川支部研修会報告

2022年2月11日(金・祝)に、第2回資格更新研修会をオンラインで実施しました。講師の先生のお話は、具体的で大変有意義な内容でしたので、ご報告いたします。

講演会

○「GIGAスクール構想下における相模原市1人1台端末の取組」

講師：渡邊茂一氏（相模原市教育委員会 教育センター指導主事）

GIGA(Global and Innovation Gateway for All (全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉))スクール構想は2019年12月に文部科学省が発表した教育改革案です。2020年3月の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休校で一気に注目を浴び、環境整備が急速に進みました。当初5年間かける計画だった1人1台端末の整備が大幅に前倒しされ、2020年度中にほぼ全国の小中学校に児童生徒の端末が導入されました。この急激な環境の変化に自治体や学校現場は様々な対応状況にあり、成果とともに課題も見いだされ試行錯誤が続いています。

講師の渡邊氏は、指導主事という教育行政の立場から相模原市の取組を推進されているだけでなく、文部科学省でICT活用教育アドバイザーなど教育の情報化に関わる事業等にも携わられています。今回の研修会では、GIGAスクール構想が始まった背景や目的に立ち返って分かりやすい説明があり、そのうえで相模原市の取組について具体的にご紹介くださいました。キーワードは「主体的で協働的な学び」と「個別最適な学び」。GIGAスクール構想で大きく変わるのは「学び方」で、1人1台端末はそのためのツールであることを再確認できたと思います。

新学習指導要領が目指すところと臨時休校中に見えた児童生徒の課題から、「各教科等の資質・能力と同時に、問題を見だし、課題を設定して、解決することを主体的に行うための方法知や、能力を育てる」すなわち「予測困難な社会において、主体的に問題を解決していく資質・能力」を育成することを目指すと明示され、そのためにICTの活用によってできることを分類し、実際に取り組みされている事例を示しながら説明されたことが印象的で、大変分かりやすく学ぶことができました。紹介された内容は多岐に渡ります。ぜひ「さがみはらGIGAスクールハンドブック」や相模原市立総合教育センターのHPをご参照ください。

情報モラル教育やデジタルシチズンシップ教育の問題や、自治体・学校レベルでのセキュリティや人的あるいは物的な環境の課題など、学校現場で実際に取り組むうへでは難しさを感じることもまだ多いのですが、先行事例に学びながら「今できるところから」取り組んでいきたいと思いました。講師の渡邊茂一氏に改めて感謝申し上げます。

(研修担当 佐藤朋実)

講演会の様子 渡邊茂一氏

⑤成長を促す普遍的な端末使用のルールづくり 110

相模原市の学校のルールで共通すること

- ①学習端末を使う目的を児童生徒に伝える
(相模原市の例)学習端末を用いるときには、学習や自己の問題解決に取り組むとともに、その活動を通して、情報モラルやセキュリティ、情報端末を操作、活用する力などを身につける。
- ②守ることで成長できるルールを設定する
*〇〇してはいけません、ではなく、●●しましょう、というルール設定の仕方をする。(生徒指導と同様)
*生活のルール=端末活用のルールとなる意識転換(端末のルールを特別視しない)
- ③端末とアカウントの管理の仕方を明確にする
アカウントで扱う情報については児童生徒の権利を大切にする。

ルールを全て定めてから端末を使い始めるのではなく、使いながらルールを良いものにしていく

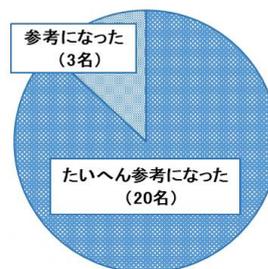
アンケート結果

36名のご参加者の内、23名(64%)からご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。ご意見・ご感想の一部をご紹介します。

■研修の内容について

- ・GIGAスクール構想、とても興味深かったです。学習障害などへの合理的配慮との結びつきが浮かびやすいのですが、子どもたち全体の考える力、やり遂げる力を伸ばしていくことにも大きく関わっていくのだなと感じました。
- ・とても参考になりました。自分自身の学校での取り組みをより前に進めたい、進みたいと感じました。まだまだできることあるなーと。
- ・あらためて可能性を感じさせていただけのご講演でした。
- ・たいへんわかりやすく、有意義なお話をたくさん教えていただき、ありがとうございました。
- ・とても良い実践のお話が聞けた反面、現在自分が所属している自治体との差に愕然とするところがあります。こういった取り組みが早く日本中に広まってほしいと思います。
- ・今後、相模原市で育った子どもたちがどのような大人になっていくのか楽しみです。色々な変数があるため難しいところもあるとは思いますが、取り組みの効果やその後の影響などを調査していただけるとありがたいなと思います。
- ・盛りだくさんでたいへん刺激的なお話でした。教育についての基本的なパラダイムが変わりつつあるのだと実感しました。自分が技術的に追いつけるか心配ですが…。

Q. 研修の内容はいかがでしたか



■運営面について

- ・時間が短かったです。
- ・たくさんの情報量に対して時間が足りませんでした。情報量に合わせた時間設定をお願いしたいです。

■今後の神奈川支部主催研修会について

- ・コロナが収束しても、講義形式の研修会はZoomでお願いしたいです。
- ・ICTの活用については、日々変わっていくところも多いので、時々テーマとしてとりあげてほしいです。
- ・日本版WISC-Vの発売をうけて、研修会で扱っていただきたいです。
- ・今後の心理検査についてお話を伺いたいです。

Q. リアルタイムオンライン形式でスムーズに受講できましたか



～貴重なご意見をありがとうございました。有意義な研修会開催のため、今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(研修担当 富田庸子)



職場紹介

藤沢市学校教育相談センター 特別支援教育専任 SC 山口千尋（やまぐちひろ）

藤沢市では、学校教育相談センター所属のスクールカウンセラーを、市内 55 の小中特別支援学校に配置しています。その他、就学相談員、来所相談員、スクールソーシャルワーカー、いじめ防止専任 SC、特別支援教育専任 SC が、それぞれの相談業務を担っています。

特別支援教育専任 SC は新しい役割で設置 7 年目。担当は私一人、主な業務は次の 5 つです。

① 市立白浜養護学校（知的障害教育部門 小・中・高等部）の校内支援

教員コンサルテーションや研修が中心。日常的に子どもと関わりながら観察による見立てを行います。知的障がいのある子どもたちの発達支援は、的確な見立てと想像力が重要！

② 市内小中学校特別支援学級支援・情緒通級指導教室（すまいる）支援

指導観察後に教員コンサルテーションやケース検討を行います。指導は集団場面なので、観察したすべての子どもの見立てと支援の方向性を伝えるようにしています。素敵な授業での子どもの反応や変化を、間近で見られるのは何よりの喜び！

③ 就学支援委員会出席（年間 10 回）、就学相談フォロー、転籍相談

転籍相談は、指導主事と学校訪問し、観察、見立て、必要に応じ面接や検査を行います。客観的根拠と将来像、そして、子ども本人の納得と見通しを大切にしています。

④ SC 支援： 学校派遣 SC が見立てや方向性に迷った際、共に検討し助言を行います。

ミニ学習会も度々開催。ケース検討だけでなく、アセスメントの質的分析、質問紙法の活用、アートセラピー等が好評！

⑤ 研修会講師： 新型コロナ禍での講演会、校内研修会、学習会は、感染症対策を取り、工夫しながら、何とか学びを止めずに行っています。

オンライン研修会と共に、対面と組み合わせた「ハイブリッド」など新しい取り組みも！



ふじキュン♡と共に、藤沢市の支援教育の充実に向けて、修行の日々です。

「職場紹介」大募集！

このコーナーで職場紹介をしてくださる方を募集しています。
神奈川支部に所属されている方であれば、掲載させていただきます。
医療、福祉、教育、司法などお互いを知り、効果的なネットワークを構築していくためにも、ぜひご協力をお願いします。

<連絡先>
神奈川支部 広報担当宛
e-mail : jacdpkanagawa.kouhou@gmail.com

お知らせ



■ 神奈川支部 2022 年度 総会

○ 日 時:2022 年5月8日(日) 午前 10 時から 11 時、Zoom によるオンライン開催

■ 神奈川支部 2022 年度 第 1 回資格更新研修会(予定)

○ 日 時: 2022 年9月 25 日(日) の 午前または午後、3 時間 【1ポイント】

○ 内 容: <講演会> LGBT 関係の話題

○ 講 師: 藤山 新氏 (東京都立大学ダイバーシティ推進室 特任研究員)

○ Zoom によるオンライン開催、参加費:無料

※ 総会、第 1 回資格更新研修会詳細が決まりましたら、神奈川支部のホームページや SOLT I (支部会員のみ) でお知らせいたします。

■ ニュースレターの配信について

ニュースレターの配信は、現在神奈川支部の Web サイトからのみにさせて頂いており、郵送はしていません。今回もホームページにアップした後、SOLT I にて「アップしました」と配信させて頂きました。お近くの会員の方でご存じない方がいらっしゃいましたら、是非神奈川支部のホームページをご覧くださいませよう、お知らせください。

<編集後記>

新型コロナウイルス感染に関する状況は依然として楽観的な見通しが持てない中、新年度を迎えることとなりましたが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

コロナ禍の生活も 3 年目に入り、世の中はまだまだ大変な思いをされている方々も多くいらっしゃる状況ですが、季節は確実に冬から春に移行したことが、頬を撫でる風、桜をはじめとする草花、鳥の鳴き声などから確実に感じられ、自然の偉大さにも改めて気づかされる毎日です。

今回のニュースレターは、第 2 回資格更新研修会の報告を中心にお届けいたしました。G I G A スクール構想は、コロナ禍の対策として生まれたわけではないものの、これからの教育にかかせないものであることがよくわかりました。皆さまはどのような感想をお持ちになったでしょうか。今後のニュースレターに載せたらよい話題などありましたら、広報担当宛てメールアドレス (jacdpkanagawa.kouhou@gmail.com) にご連絡をお願いいたします。

(広報担当 橋爪 美津子・須田恭平)